

浜口笑顔で銅

北京に向けて気合だ

【アテネ二十四日共同】
銅メダルをうれしそうに観客に見せ、満面の笑みを浮かべた。「金メダル以上のものを経験させてもらった」。二十三日夜、3位決定戦を制した女子レスリングの浜

口京子選手(26)。一番いい色のメダルには届かなかったが、最後は晴れ晴れとした表情だった。スタンドには、鉢巻きをした大応援団。「キョーコ」「キョーコ」と大コールが

起こる中、終始攻め続けた。「何が何でもメダルを取りたいと思っていた」。勝利の後には控えめにガッツポーズ。マットの中央に感謝の意を示すようにキスをした。

表彰台の上でにっこり。銅メダルを首に掛けられると、右手でほおにくっつけて、スタンドの父アニマル浜口さん(56)に向かって歯を見せて笑った。

準決勝で、会場での点数表

示ミスがあり、アニマルさんが試合結果に「間違っているよ」と絶叫する場面も。3位決定戦後、浜口選手は「判定はあの通りだったと思う。負けは負け」とさばさばしていた。



女子72キロ級で獲得した銅メダルを掲げ喜ぶ浜口京子選手(アノリオシア・ホール(共同))

帰り際「北京に向けて気合だ」と絶叫したアニマルさん。浜口選手は「今晚遅くなっても父とゆっくり話がしたい」と言い残した。父娘物語はまだまだ続く。